

EUの柑橘類事情

米国農務省GAINレポート 2023年12月14日

これは米国農務省海外農業局のマドリッド事務所(スペイン)が作成した「柑橘類年次報告書」の一部を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<要旨>

干ばつと灌漑の制約に開花期と着果期の異常な高温が重なり、2023/24年度のEUの柑橘類は潜在的な生産量が限られており、同じく収穫量が少なかった2022/23年度と同程度にとどまると予測される。EUのレモンとグレープフルーツの生産量の増加は、オレンジ、タンジェリン/マンダリンの生産量の減少を補う。インフレによる需要低迷の中、域内出荷量が少ない分、輸入量は引き続きシェアを拡大する。

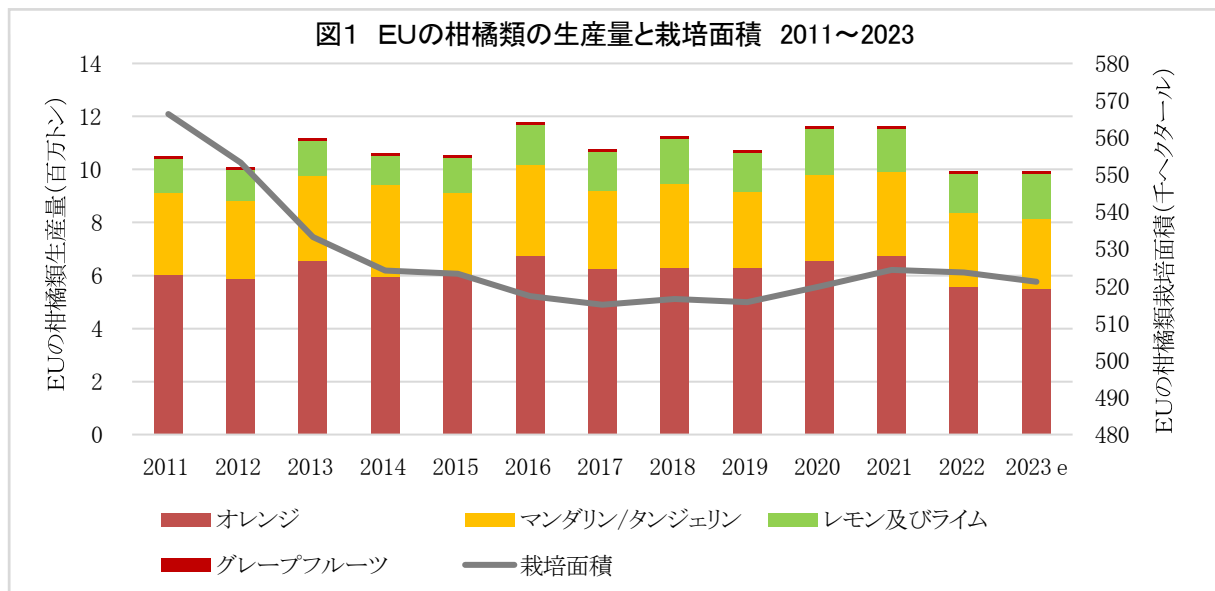
<柑橘類全般>

表1 EUの柑橘類の生産需給統計

柑橘類合計(生鮮) 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	518,747	524,329	522,226	523,685		521,161
収穫面積(ヘクタール)	476,285	476,590	480,266	481,605		451,470
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	11,614	11,659	10,464	9,940		9,939
輸入量(千トン)	2,021	2,019	2,020	2,315		2,230
総供給量(千トン)	13,635	13,678	12,484	12,255		12,169
輸出量(千トン)	884	886	845	782		770
生鮮域内消費量(千トン)	11,093	11,130	10,305	10,351		10,302
加工仕向量(千トン)	1,658	1,662	1,334	1,122		1,097
総仕向量(千トン)	13,635	13,678	12,484	12,255		12,169

米国農務省の公式データではない。

出典：2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所



出典：海外農業局EU各事務所

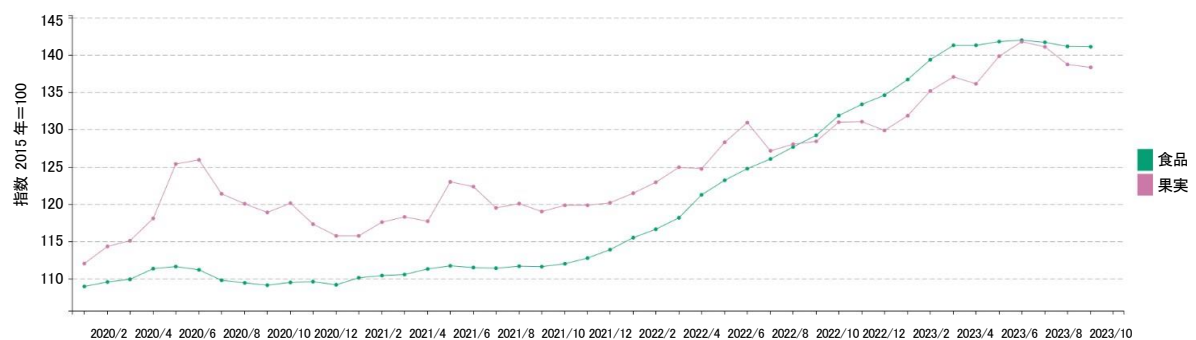
2023/24年度のEUの柑橘類の総生産量*は990万トンと予測され、前年の水準に非常に近いが、過去の生産量の平均を下回っている。一方、EUの柑橘類の総生産量から予想される安定性は、柑橘類の様々な

*：EUの柑橘類生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアが主産地であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスが続く。

品目間の異なる傾向を覆い隠している。合わせてEUの柑橘類生産量の85%近くを占めるオレンジとマンダリン/タンジェリンは、それぞれ2%及び5%の減少となる。反対に、グレープフルーツは6%の増加が見込まれており、最も注目すべきは、レモンの生産量が2023/24年度に15%以上増加すると予想されることである。また、2023/24年度のEUの柑橘類全体の減収は、スペイン、ギリシャ、ポルトガルでは同様になると予想されるが、イタリアでは不作だった2022/23年度と比較して柑橘類の総収穫量が増加すると予想される。

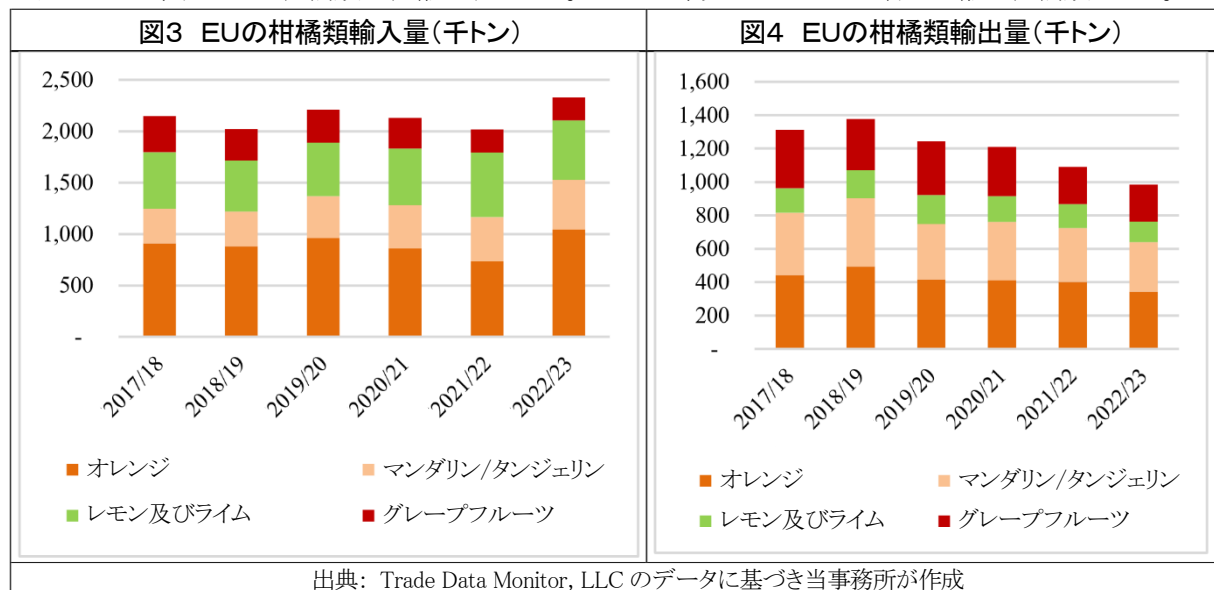
EU全域の生産者は2023/24年度も引き続き、エネルギーコスト(燃料及び電気)から肥料や農薬に至るまで、コストの上昇に直面した。肯定的な点としては、農場出荷価格の上昇が生産者の収益の改善に寄与し、EUにおける2年連続の柑橘類の不作によるマイナスの影響を打ち消す可能性がある。消費者の可処分所得に悪影響を及ぼしている生鮮果実や食品一般の価格の高騰が、EU域内の消費を抑制すると予想される。また、EUの2023/24年度の収穫量が少ないことは、加工用に仕向けられる柑橘類の量を減少させるものと予想される。

図2 EUの食品及び果実の消費者物価指数(2015年=100)



出典: EU食品価格監視ツール

EUの柑橘類輸入は、域内生産が少ない分引き続き市場シェアを拡大する。南半球(南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ及びチリ)の柑橘類の出荷シーズンがタイムリーに終了したことから、EU産の柑橘類は、この地域が新シーズンに移行する中、EU市場を支配するのに有利な立場にある。EUは輸入が輸出を大幅に上回っており、すべての柑橘類の純輸入者である。オレンジ、次いでレモンが最大の輸入柑橘類である。



EUの2023/24年度の生鮮柑橘類の輸出は、EUの不作に伴い縮小すると予想される。また、域内で柑橘類が入手しにくくなることから、柑橘類を生産するEU域内南部の加盟国から北部の非生産国に向けた柑橘類の域内貿易が増加すると予想される。

<オレンジ>

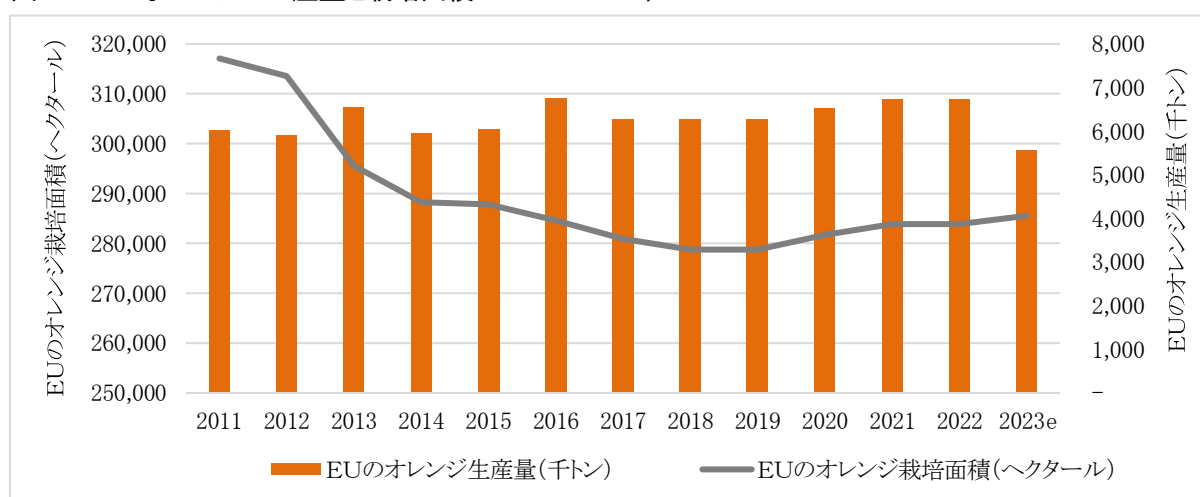
表2 EUのオレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	279,596	283,872	282,348	285,524		285,147
収穫面積(ヘクタール)	260,935	261,440	263,043	264,632		236,305
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	6,720	6,728	5,856	5,564		5,475
輸入量(千トン)	740	736	835	1,043		1,000
総供給量(千トン)	7,460	7,464	6,691	6,607		6,475
輸出量(千トン)	403	403	390	343		340
生鮮域内消費量(千トン)	5,947	5,950	5,470	5,640		5,525
加工仕向量(千トン)	1,110	1,111	831	624		610
総仕向量(千トン)	7,460	7,464	6,691	6,607		6,475

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

図2 EUのオレンジの生産量と栽培面積 2011～2023年



出典：海外農業局EU各事務所

EUの2023/24年度のオレンジ生産量は540万トンと予測され、これは2022/23年度の既に少ない生産量よりもさらに2%少ない。オレンジはEU域内で最大の柑橘類品目であり、柑橘類の総生産量の55%以上を占めている。予想されるEUのオレンジ生産量は、EUのオレンジ生産量の50%を占めるスペインの生産量の減少によって大部分が説明され、ポルトガルとギリシャで予想される減収も一部関係している。EUのオレンジ生産量の25%近くを占めるイタリアの見通しは改善したが、EU域内の他のオレンジ生産国の減少に対抗するには十分でない。

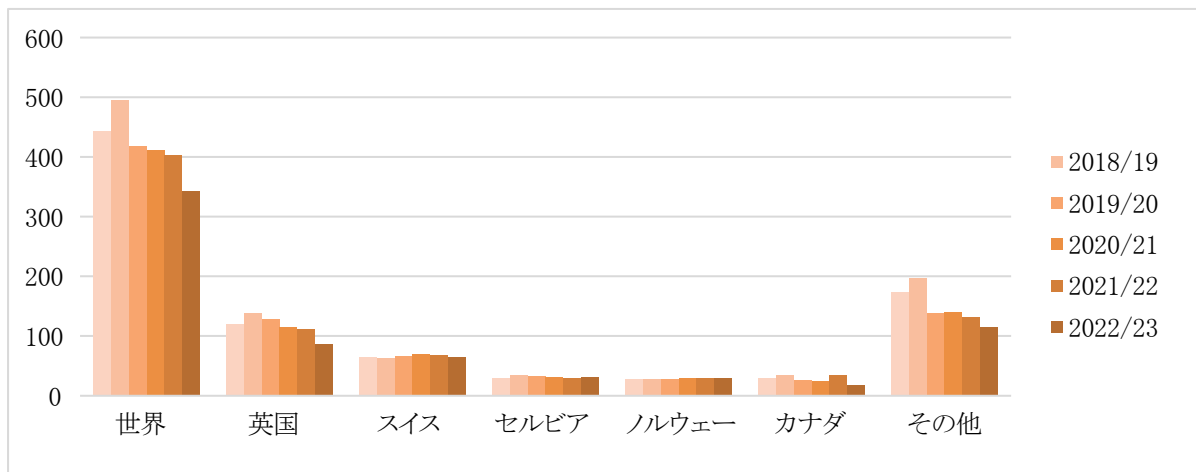
スペインの2023/24年度のオレンジ生産量は11%減少すると予測される。スペインのオレンジ生産は、柑橘類の産地で灌漑の制約を引き起こした干ばつと、開花期と着果期に記録された極端な高温によって深刻な影響を受けた。

イタリアの2023/24年度のオレンジ生産量は10%増加すると予測される。夏の干ばつは大量の灌漑によって対応できたが、生産者が負担するコストはより高くなった。さらに、夏の暑さと雨の少なさが重なり、果実の大きさに悪影響を及ぼした。同様に、秋の暖かい天候は、ブラッドオレンジの着色の開始を遅らせ、果実の最終的な色に影響を与える可能性がある。

ギリシャの2023/24年度のオレンジ生産量は、ナベリーナ品種の着果量の減少により、前シーズンに比べてわずかに減少すると予想される。同様に、夏の干ばつも、ほとんどのオレンジ品種の生産量に悪影響を及ぼした。

ポルトガルの2023/24年度のオレンジ生産量は、降水量不足がオレンジの収量とサイズに悪影響を及ぼしたため、前シーズンの水準を下回ると推定される。

図7 EUの輸出先国別のオレンジ輸出量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成

EUの2023/24年度のオレンジ輸出量は、生産量の減少予測に伴い、前シーズンの水準から若干下方修正された。EUは、生鮮オレンジの輸出で世界をリードしている。EU産オレンジは主にEU最大のオレンジ生産国であるスペインから輸出されており、主な輸出先は英国、スイス、セルビア、ノルウェー、カナダ等である。

2022年7月14日以降、フォールスコドリグモス (*Thaumatotibia leucotreta*) の影響がある国からEUへのオレンジの輸入には、予冷及び輸送中の低温処理が義務付けられている。詳細は「政策」の項(省略)参照

<オレンジ果汁>

表3 EUのオレンジ果汁(ブリックス 65)の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	1,042,000	1,111,000	831,000	624,000		610,000
期初在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
製造量(トン)	80,778	86,127	64,421	48,374		47,288
輸入量(トン)	566,664	566,745	560,000	525,090		508,000
総供給量(トン)	662,442	667,872	639,421	588,464		570,288
輸出量(トン)	111,860	111,848	90,000	110,798		95,000
域内消費量(トン)	535,582	541,024	534,421	462,666		460,288
期末在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
総仕向け量(トン)	662,442	667,872	639,421	588,464		570,288

米国農務省の公式データではない。

出典: 2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

EUの2023/24年度のオレンジ果汁製造量は、2022/23年度の推定4万8,400トンよりも少ない4万7,300トンと予測される。2年連続でオレンジの加工仕向け量が少ないのは、域内での入手可能性が少ないためである。供給が逼迫している場合、オレンジ生産者は最も収益性の高い生鮮市場を優先する。しかし、十分な供給がある場合、または果実のサイズが生鮮市場の基準を満たしていない場合、EUのオレンジ加工業は域内のオレンジ市場のバランスを安定させる上で重要な役割を果たす。

<タンジェリン/マンダリン>

表4 EUのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	農務省公式	今回推計値	農務省公式
栽培面積(ヘクタール)	150,197	150,200	149,476	146,120		142,033
収穫面積(ヘクタール)	137,950	137,785	137,546	136,458		132,595
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	3,158	3,190	3,035	2,820		2,675
輸入量(千トン)	430	430	410	482		480
総供給量(千トン)	3,588	3,620	3,445	3,302		3,155
輸出量(千トン)	322	322	300	297		225
生鮮域内消費量(千トン)	3,018	3,051	2,905	2,785		2,720
加工仕向量(千トン)	248	247	240	220		210
総仕向量(千トン)	3,588	3,620	3,445	3,302		3,155

米国農務省の公式データではない。

出典：2021/22年度及び2022/23年度の貿易量はTrade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

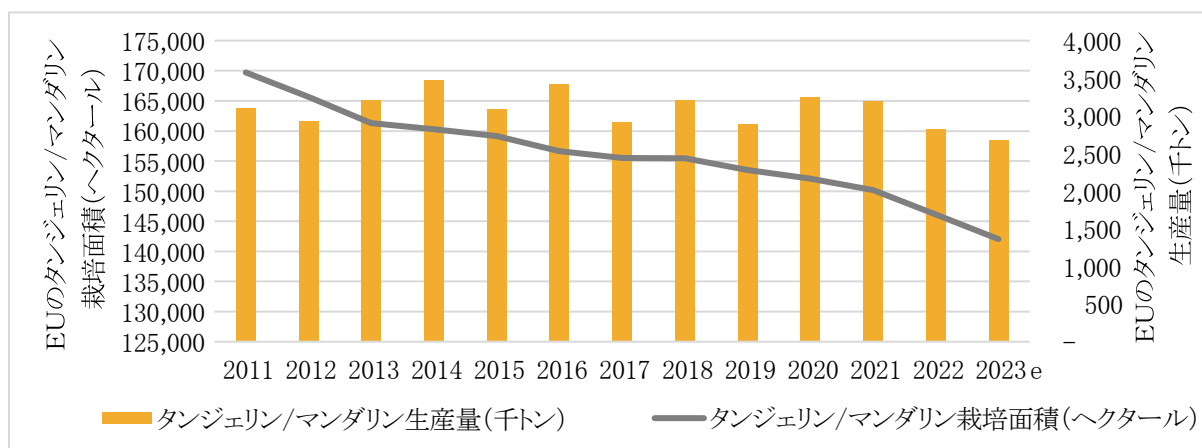
EUの2023/24年度のタンジェリン及びマンダリン生産量は、すべての主要生産国で減少したため、前シーズンの280万トンよりも少ない270万トンと予測される。

イタリアの2023/24年度のタンジェリン及びマンダリンの生産量は、イタリアの主要産地の1つであるシチリア島での異常な暑さにより、2022/23年度と比較して10%近く減少すると予測される。

ギリシャの2023/24年度のソフト柑橘類の生産量は、ギリシャ西部の悪天候が特にクレメンタイン品種の収量に深刻な影響を与えたため、前年比で15%減少すると予想される。

EU最大のマンダリン及びタンジェリンの生産国であるスペインでも、2023/24年度の実産量が減少すると予測される。しかし、スペインにおけるマンダリン及びタンジェリンの生産量の減少は、ギリシャやイタリアほどの急落ではないと予想される。

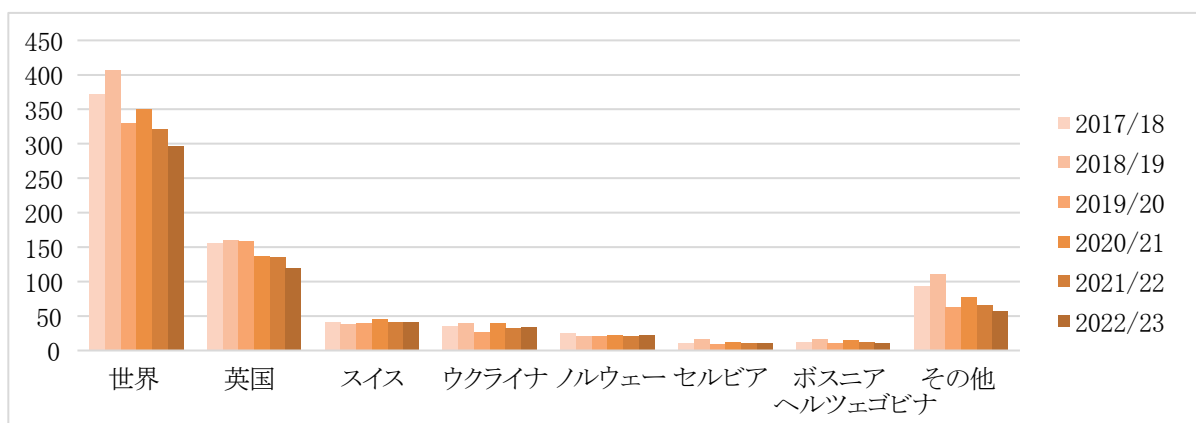
図10 EUのタンジェリン/マンダリンの生産量と栽培面積 2011～2023年



出典：海外農業局EU各事務所

2023/24年度のEUのタンジェリンとマンダリンの輸出は、収穫量の減少により域内の供給量が減少するため、その可能性が制約されると予想される。EUの主な輸出先は、英国、スイス、ウクライナ、ノルウェー、セルビア等である。

図12 EUの輸出先国別のタンジェリン/マンダリン輸出量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成

<レモン/ライム>

表5 EUのレモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	85,164	86,466	86,442	87,838		89,371
収穫面積(ヘクタール)	74,209	74,174	76,333	77,192		78,841
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	1,630	1,635	1,474	1,458		1,685
輸入量(千トン)	628	630	560	581		550
総供給量(千トン)	2,258	2,265	2,034	2,039		2,235
輸出量(千トン)	142	144	140	122		180
生鮮域内消費量(千トン)	1,829	1,830	1,642	1,650		1,790
加工仕向量(千トン)	287	291	252	267		265
総仕向量(千トン)	2,258	2,265	2,034	2,039		2,235

米国農務省の公式データではない。

出典: 2021/22年度及び2022/23年度の貿易量はTrade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

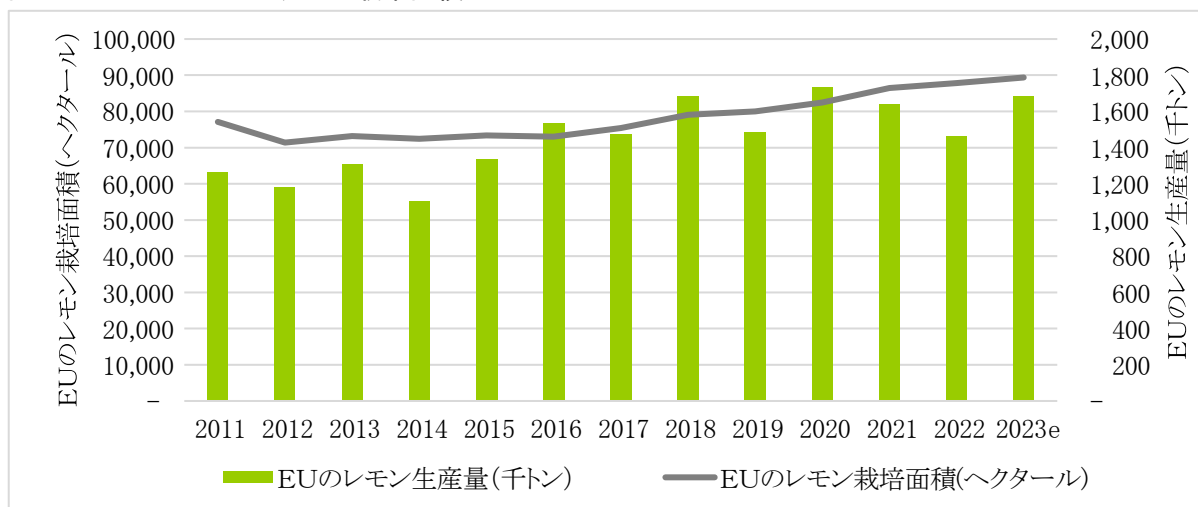
EUの2023/24年度のレモン生産量は、2022/23年度の150万トンから160万トン強に増加すると予測される。この生産量の増加は、2022/23年度にレモン生産量が記録的に低かったスペインで、史上最高の生産量となることに全面的に帰することができる。反対に、イタリアとギリシャでは、2023/24年度のレモン生産量が減少すると予想される。スペインとイタリアはEUで第1位と第2位のレモン生産国であり、それぞれEUのレモン総生産量の65%及び30%近くを占めている。スペインでは、2022年以降1万1,500ヘクタール以上が有機栽培され、世界最大の有機レモン栽培面積となっている。

スペインでは、レモンの栽培面積の増加と良好な生育条件により、公式筋によると、降水量が開花と着果に悪影響を与え、夏が非常に暑く乾燥したことが特徴的であった悲惨な前シーズンと比較して、25%以上の生産量の増加が見られた。しかし、業界関係者らは、夏の暑さがレモンの果実のサイズに悪影響を及ぼし、9月の雹を伴う嵐がレモンの果樹園にある程度の被害をもたらしたと指摘している。

イタリアでは2023/24年度のレモン生産量が前シーズンと比べ10%減少すると見込まれるが、ギリシャでは前シーズン並みと予想される。

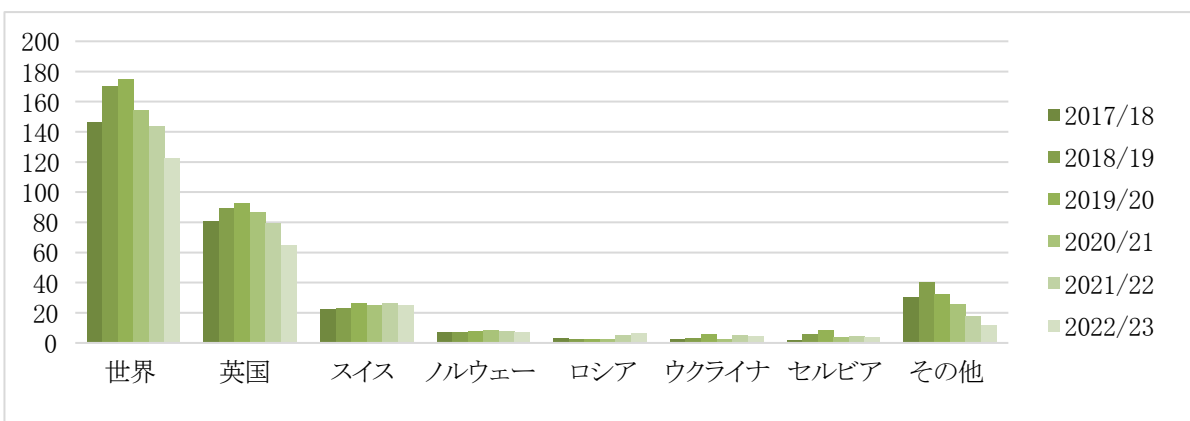
EUの2023/24年度のレモン輸出量は、前シーズンの水準をわずかに上回ると予測される。EU産レモンは主としてスペインから出荷され、主な輸出先は、英国、スイス、ノルウェー等である

図13 EUのレモンの生産量と栽培面積 2011～2023



出典: 海外農業局EU各事務所

図15 EUの輸出先国別のレモン輸出量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成

<グレープフルーツ>

表6 EUのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
販売年度の始まり	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	3,790	3,791	3,960	4,203		4,610
収穫面積(ヘクタール)	3,191	3,191	3,344	3,323		3,729
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	106	106	99	98		104
輸入量(千トン)	223	223	215	209		200
総供給量(千トン)	329	329	314	307		304
輸出量(千トン)	17	17	15	20		25
生鮮域内消費量(千トン)	299	299	288	276		267
加工仕向量(千トン)	13	13	11	11		12
総仕向量(千トン)	329	329	314	307		304

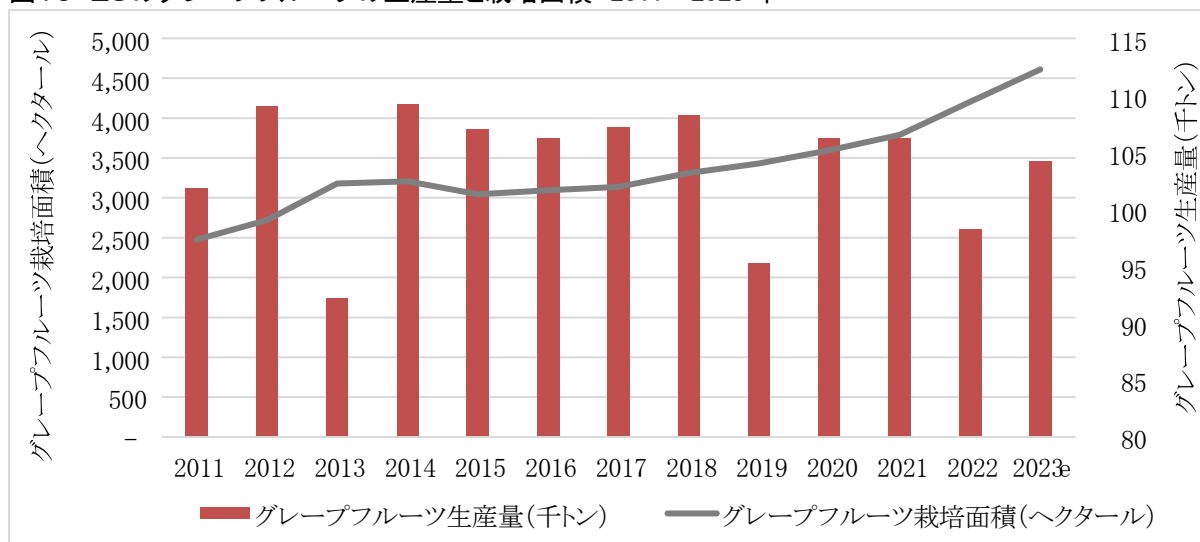
米国農務省の公式データではない。

出典: 2021/22年度及び2022/23年度の貿易量はTrade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

EUの2023/24年度のグレープフルーツ生産量は、2022/23年度の9万8千トンから10万4千トンに増加すると予測される。この生産量の回復は、スペインでの生産量の反発に全面的に起因すると考えられる。スペインはEU最大のグレープフルーツ生産国であり、EUの総生産量の平均75%近くを占めている。キプロス、イタリア、ギリシャなどEUの他のグレープフルーツ生産国では安定的な生産が見込まれる。

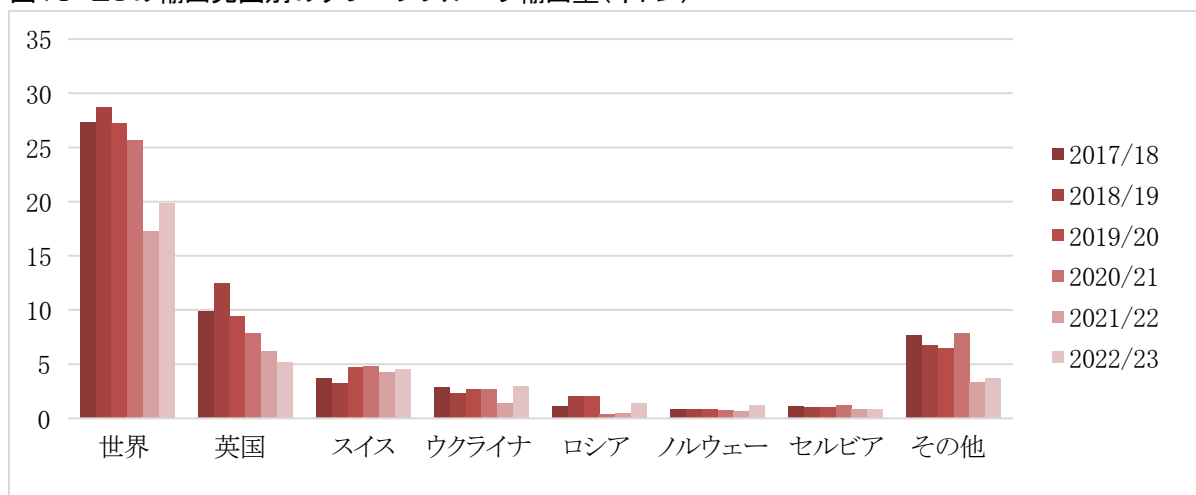
EUのグレープフルーツの輸出は少ないが、2023/24年度は域内の供給量の増加に伴わずかに拡大すると予想される。EUのグレープフルーツの主な輸出先は、英国、スイス、ウクライナ、ロシア等である。

図16 EUのグレープフルーツの生産量と栽培面積 2011～2023年



出典: 海外農業局EU各事務所

図18 EUの輸出先国別のグレープフルーツ輸出量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成